

腫瘍内科



診療科紹介 HP

診療部長紹介

腫瘍内科医としてこれまで臓器横断的に固形がんの薬物治療を学んできました。現在、各患者さんに最も適した薬剤を使用できるようにするための研究、トランスレーショナルリサーチを進めています。日常のがん診療における‘precision medicine’の標準化を目指した診療と研究、並びにゲノム情報を理解し臓器横断的に診ることができる腫瘍内科医の育成に力を入れています。



診療部長

砂川 優 (主任教授)

診療科の特色

当院の“がん診療”の特色は、外科・内科・放射線科・病理・緩和チームなど、がんに関わる科が一体となり、“チーム聖マリ”として、がん患者さん一人ひとりの生活を支えることに尽力しています。さらに、がん診療の標準治療である「ゲノム医療」にも力を入れ、がんゲノム医療拠点病院としての役割を果たすため、チームで取り組み、神奈川県北東部のゲノム医療を支えています。抗がん剤治療、ゲノム診断・治療についてぜひご相談ください。

対象疾患

食道がん、胃がん、膵がん、胆道がん、大腸がん、乳がん、原発不明がん
その他希少な悪性腫瘍、ゲノム異常を有する固形がんなど

患者さんのご紹介について

 聖マリアンナ医科大学病院
ST. MARIANNA UNIVERSITY HOSPITAL

 044-977-8111 (代表)

紹介受付時間：平日 8：30～15：00
土曜 8：30～11：00

 044-975-0608

医療機関からのWEB予約サイトはこちら

 聖マリアンナ医科大学病院
患者さんの紹介について

お問い合わせ先：メディカルサポートセンター



◆標準治療

当科では、抗がん剤のスペシャリストである腫瘍内科医があなたにもっとも適した治療を提案します。

「標準治療」とは、過去から現在までに世界中で行われてきた臨床研究の結果、現時点で最良と考えられている治療です。当科ではこの世界水準の「標準治療」をまず提案します。しかし、最善の治療とは、科学的な根拠に基づく治療方針はもちろんのこと、診療経験に基づいた個別の臨床判断や、患者さん自身の意向を考慮したものであるべきと考えてます。



◆がんゲノム医療

患者さんごとの遺伝子情報（ゲノム）をもとに、最適な薬や治療法を選ぶ医療です。最近の研究により、がんは遺伝子異常の蓄積で発症し、同じ種類のがんでも人によって異なる遺伝子異常があることがわかってきました。これにより、異なる臓器のがんでも共通の遺伝子異常があれば、同じ薬が効果を発揮する可能性があります。保険適用されている「がん遺伝子パネル検査」により、こうした遺伝子異常の特定が可能になり、標準治療が効かない場合でも新たな治療の可能性が見出せます。

当院は2019年に「がんゲノム医療拠点病院」に指定され、腫瘍内科では積極的にゲノム医療を導入。治療が難しいケースだけでなく、治療前から遺伝子検査を行い、より効果的な治療戦略の立案にも取り組んでいます。

◆緩和ケア治療

がんの治療では、がんそのものへの治療と同時に「緩和ケア」も重要です。緩和ケアは、抗がん剤の副作用だけでなく、がんによる痛みや不安など、身体的・精神的な苦痛を和らげる治療です。必要に応じて診断直後から始まり、継続的に行われます。治療には、痛み止めや吐き気止めのほか、腸閉塞への手術や骨転移の痛みへの放射線治療なども含まれます。

これらは腫瘍内科と緩和ケアチームが連携して行い、早期から緩和ケアを導入することで、患者さんの生活の質の維持や、生存期間の延長が期待されます。

抗がん剤治療全般について、何でもご相談下さい。また、「がん」以外の「悪性腫瘍」についても診療しておりますので、ご相談下さい。